

食のイノベーション推進事業の取組状況について

1 要旨・目的

農業経営体の「稼ぐ力」を高めることを目的に、生産から販売に係る様々な企業と農業経営体が連携し、専門家のアドバイスを受けながら、新商品やサービスの提供など、新たな「食」のビジネスを創発する取組である「食のイノベーション推進事業」について、この度、3プロジェクトを採択するとともに、プロジェクトの実施計画を説明する発表会を開催したので取組状況を報告する。

2 現状・背景

県では、生産性の高い農業を取り入れて安定した所得を確保しながら、本県の農業をリードする企業経営体の育成支援を進めており、その中で、「異業種と連携したい」、「社会環境の変化をビジネスにつなげたい」など、新たなビジネスの創発を希望する意欲的な農業経営体が現れており、こうした経営体の経営発展を促すため、今年度より本事業を実施している。

3 概要

(1) 対象者

農業経営体及び食のイノベーションに関心がある事業者

(2) 実施内容（6月以降の取組）

ア プロジェクトの募集

6月から、本事業の内容や個別相談会等について説明するオンラインセミナーを開催するとともに、7月末までに延べ32回の個別相談会を実施し、応募までのフォローアップを行った。

イ 1次審査

農業経営体や食品加工、ITなど幅広い分野の23事業者から24件のプロジェクトの応募があり、適合性、革新性及び将来性を評価項目として7月中下旬に1次審査を行い、6件のプロジェクトを通過させた。

ウ 2次（最終）審査

1次審査を通過した6件のプロジェクトについて、1次審査項目に妥当性及び実現性の項目を加え9～10月上旬に2次審査を行い、3件のプロジェクトを採択した。

なお、審査は、1次、2次ともに、食の専門家（県大教授）、MHDF（委託事業者）、県職員が行った。

エ 採択プロジェクトの概要

(ア) プロジェクト名：薬局 DE 野菜（やっきょくでやさい）

a 起案代表者：藤谷 祐司（三次市）【農業経営体（白ねぎ）】

b プロジェクト概要

- ・ 地域密着型の調剤薬局が大手ドラッグストアと差別化したいニーズを捉え、「美味しく、健康でいたい」層をターゲットに、健康をテーマにした野菜を販売する。
- ・ 医療現場など今までにない業界との協業により、栄養機能に着目した商品開発（機能性表示食品トマト等）など、新たな価値の創出を目指す。



(イ) プロジェクト名：HIROSHIMA HYBRID DESIGN

(ひろしまハイブリッドデザイン)

a 起案代表者：株式会社 ATORA（広島市）【食品製造業】

b プロジェクト概要

- ・ 市場流通できない廃棄野菜等を有効活用するため、食品製造業者と農業経営体がチームとなり、高品質な冷凍商品をスピーディーに開発し、百貨店、高級スーパー等で販売する。
- ・ こうした新たなブランド商品の展開により、本県の豊かな自然に育まれた高品質な農畜産物をマーケティングの力でPRする。



(ウ) プロジェクト名：comorebi commune（こもればいコミュニティ）

a 起案代表者：小嶋 正太郎（尾道市）【農業経営体（八朔，安政柑）】

b プロジェクト概要

- ・ 因島における柑橘生産者の後継者問題を解決するため、創造性に溢れる都会在住クリエイターによる耕作放棄地を活用した手軽な就農モデルの創出に挑む。
- ・ 農家民宿を立ち上げ、クリエイターを続けながら就農できる仕組みを整備するとともに、今までにない視点での新商品を開発し、地域の魅力を発信する。



オ 採択プロジェクト発表会について

採択者の新たなビジネスの創出に挑戦する過程を取材してもらうこと等を目的に、報道機関向けの発表会を開催した。

(ア) 日時：令和4年10月31日（月）13:30～15:00

(イ) 場所：県庁講堂

(ウ) 参加報道機関等：NHK，中国新聞，日本農業新聞など7社

(3) 予算（単県）

50,000 千円

(4) 今後の対応

採択事業者に対して、新たなビジネスが実現できるよう現地実証を支援するとともに、来年度の採択に向けて、意欲ある事業者の発掘や課題の深堀を行う。